

## 令和4年度第2回学校運営協議会 記録

日 時 令和4年12月5日(月) 10:00～11:35

場 所 本校会議室

出席者 学校運営協議会委員 (5名 A委員:私立大学教授、B委員:障がい者就業・生活支援センター所長、C委員:株式会社緑化推進部部长、D委員:吹田市立就学前施設園長、E委員:本校PTA委員副会長)、校長、事務局 (8名)

※運営委員の吹田市立中学校校長はご欠席

### 1. 校長挨拶

本日は令和4年度第2回学校運営協議会にお越しいただきありがとうございます。  
コロナ禍ですが、第2回目も無事に開催することができました。委員の皆様方には、貴重なご意見を賜りたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

### 2. 資料の確認 <略>

### 3. 中学部の授業見学

中学部3年「国語・英語」 単元名「俳句を書こう」 生徒5人

### 4. 現状報告

<令和5年度使用教科用図書一覧表について>

<進路状況報告について>

<学校教育自己診断アンケートについて>

<学部間連携授業について>

・配付資料に沿ってご説明

### 5. 協議 (進行は会長のA委員)

A委員 それでは協議を始めます。委員の皆様それぞれのお立場からご質問ご意見をざっくばらん  
をお願いいたします。

まず、学校教育自己診断アンケートについては回答率の低下について改善策を検討してほしい。教員の悩みごとの相談先も様々に必要だと思うので併せて検討してほしい。

学部間交流については、学部間にカベのない学校づくりを心掛けておられると思います。  
こういう交流はスムーズな学部移行に効果的かと思います。

B 委員 学校教育自己診断アンケートについては、先生方の回答率は100%であってほしい。自由記述欄に「ギスギスしている」の記述があるので少し心配です。保護者の方からの自由記述には連絡帳に関する内容があります。親御さんの思っておられるお気持ちの出し方、受け止め方を検討いただけたらと思います。

見学した中学部の授業では生徒さんがiPadを使い慣れている様子が見て取れました。内容も季節に応じて良かったです。

C 委員 学校教育自己診断アンケートについては、肯定的評価の内容が多く素晴らしいです。児童生徒用アンケートの「大きくなった時のことや仕事のことに教えてくれますか」の肯定的評価が52%というのは、他の項目の肯定的評価の数値と比べると低い。しかし、この低い理由は支援学校の児童生徒が対象になっていることが理由なのか、それとも健常者が対象の場合でも同様なのか、一度検討していただければと思います。

B 委員 学生全般の就職に対する最近の傾向としては、「長期間にわたり勤める」という意識が低いこと、「福利厚生の実質性に価値を置いている」ことなどが挙げられます。なかなか将来の自分というイメージは持てていないかもしれません。

A 委員 大学生も教育系の学部であれば教師をめざしている場合が多いが、それ以外の学部の場合は、何をしたいのか分からないのが悩み、という学生も多いように思います。やはり「将来のこと」というのはイメージが持ちにくいようです。

D 委員 学校教育自己診断アンケートについては、お子さんの様子を保護者に知っていただくことの難しさを改めて感じました。お越しいただくこともコロナ禍で難しいこともあり、本当に難しいですね。

中学部の授業では音声を文字化して表示できる機器も生徒の実態に応じて使用しており、素晴らしいです。

E 委員 学校教育自己診断アンケートの「大きくなった時のことや仕事のことに教えてくれますか」については、高等部の授業で「校内実習」があって初めて将来のことに対するイメージが持てた気がします。校内実習後にアンケートの実施があればイメージしやすいかもしれません。

回答率の低さですが、QRコードの活用がまだ浸透していないようにも思います。ついつい、めんどくさいな。と感じてしまう。十分に活用されていくにはまだまだもう少し時間が必要かもしれません。

A 委員 他の支援学校でもQRコードを活用したアンケートの実施は増えてきています。大変というご意見もあれば、楽だというご意見もあり、どちらもあるようです。

E 委員 自由記述欄への記入については、今回のようなアンケートに書く人もいますが、日々の連絡帳に書く人の方が多いように思います

A 委員 アンケート結果による改善策の実施も必要だが、連絡帳等を活用した日々のやり取りの中で改善していけることも多いと思います。

就学前時点での進路選択、また、卒業後の進路選択についてはいかがでしょうか。

D 委員 保護者の方はかなり悩んでおられます。支援学校であれ、居住地の小学校であれ、どちらにもメリットはあると思っています。

C 委員 進路先を選択し就職しても、そこからの大変さはどの人にもある。ただ、そのしんどさを他人に言いにくい人がいる。そういう人たちにとっても相談先があるというのは大事なことだと思う。

B 委員 機関として様々な人と関わっているが、なかなか密に関わるのが難しい。学校の先生方ほど関わるのは難しい。たとえば、就職された方の中には、給料が入ったこと、自由な時間も増えたことなどで夜遊びを覚えてしまう場合がある。仕事に行きにくい状況になってしまってもすぐには把握が難しい。そんな時、支援学校の先生であれば卒業後もその方の状況を把握されており連携できる場合もあります。

A 委員 今回の話題としては教員と保護者の関係性、教員間関係性、就学前や卒業後の各機関との関係性の重要さがあらためて確認され、子どもたちからの SOS を少しでも早くキャッチすることの重要性が浮かび上がりました。

次回のこの場で今回の件の報告をお願いいたします。

これで協議を終わります。

## 6. 本日のまとめ、ご挨拶

校長 本日の協議では、特に学校教育自己診断アンケートについてご提言をいただきました。改めて学校経営を見つめていきたいと思っています。引き続きよろしくおねがいします。

## 7. 事務連絡

次回は令和5年2月6日（月）を予定しております。

後日改めて連絡差しあげます。

## 8. 閉会